みどり

令和５年８月２９日
調布市立緑ヶ丘小学校
校長　鳥居　圭
E-mail　midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

「コミュニケーション力」の二つの顔と「学びに向かう力」

調布市では、定期的に保育所、幼稚園、園長先生方、小学校の先生方が集う機会があります。本年度は本校が会場校となり、近隣の保幼小の皆さんが本校の１年生の授業を見学したり、情報や意見を交換したりしました。やはり３年続いたコロナの影響と、コミュニケーション力との関連についても話題の一つになりました。最近ベネッセ教育総合研究所が実施した調査でも、保護者の方はいちばんの気がかりにわが子の友達とのかかわりを挙げています。

コミュニケーション力には、実は二つの側面があります。一つは「人間関係の維持」。「仲良くする」ことや「いざこざがあっても解決する」ことです。昨今のいじめの問題は、授業の中で、というよりも、人とのつきあいの中で生まれています。だから、「仲良くする」、「嫌なことがあってもうまく対応する」という力も、幼児期から伸ばしていく必要があります。人間関係は発達の時期によって相手と性格要因も関与しますから、人間関係を維持する力を高めていくことは今まで通り大切なことです。

もう一つは「集中力」「協力する」ことです。従来の日本の教育現場では、仲良くしていく面は比較的強調されてきました。しかし、学びに向かう場面での「協力」については、最近特に強調されてきた事柄です。「学習」という面から考えると、これからは、「集中力」や「協力する力」をつけることが大事なのだ、という考え方です。

前述した調査で、小学１年生の保護者に「小学校に入学するまでに身につけておいたほうがよかったと思うこと」を聞いたところ、「あいさつ」や「お礼が言えること」などの生活習慣に加え、「物事をあきらめずに、挑戦することができる」、「人の話を終わるまで静かに聞ける」、「人に自分の気持ちを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることができる」などが上位に挙げられたそうです。こういった力は自己調整力であり、特に「学びに向かう力」と呼んでいます。学校での学びには、学習に集中して取り組むこと、できないときに「頑張ろう」と自分を励ますこと、あきらめずに学習を続けていくことが大切で、こうしたことを可能にするのが、自己と感情を調整する力です。子供たちは、幼稚園・保育所では、友達と遊ぶ中でけんかをしたりして、友達と仲直りの中で人との折り合いなどを経験しながら、だんだんと自己と感情のコントロール、つまり「学びに向かう力」の一つを学んでいくわけです。

小学校でも、「学力って何ですか」という問いに対して、「育成すべき資質・能力」ということで以下の要素で示しています。１．生きて働く「知識・技能」の習得　２．思考力、判断力、表現力等　３．学びに向かう力・人間性　です。１学期末にお渡しした「あゆみ」についてもこれら３つの観点を活用してお子様が身に付けた学力についてお伝えしています。「あれ、３つ目の項目の文言が違うのでは？」と気付いた方、さすがです。３つ目の項目については、年間を通じて涵養する、また、人間性など評価が難しい部分がある、といったことから『主体的に学習に取り組む態度』として評定しています。ですから、担任の先生の所見の部分について「学びに向かう力・人間性」に係るコメントが多くなる傾向があるかもしれません。

コロナも一段落してきたとみることができれば、今後さらに本校での多様な教育活動を通して、自分の気持ちを伝える、相手の意見を聞く、物事に挑戦するなど、自己主張・自己統制・協調性・好奇心に関係する力、つまり「学びに向かう力」をご家庭の教育と連携しながらどんどん伸ばしていくことができたらと思います。